

百合(Lily)

ピアノ組曲「六花」より

Kouhei IHARA

Lily

Op.23

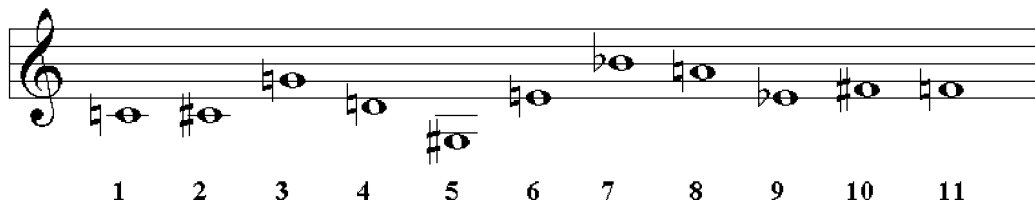
Notation（奏法に関して）

- ・ この曲は色聴による百合のスケッチである。
- ・ テンポは4分音符＝25とあるが、自由に揺れ動いて良い。しかし速くなり過ぎないように。
- ・ 小節線は演奏と臨時記号の表記のために引いてあるが、あくまで便宜上のものであって作曲者は小節線や拍感囚われない演奏を望む。点線で書いてあるのはそのためである。
- ・ 臨時記号は通常の音楽どおりその高さの音に1小節（点線で表記）のみ有効である。
- ・ ペダリングは表記してあるが、演奏者の任意によってハーフペダルなどを用いて響きを整えて良い。
little a little は小刻みに踏む（整えながら）という意味だが、表記してあるペダリングが常に最上のものとは限らないし、ピアノによっても変わるであろう。作曲者はこの曲に関しては色彩豊かな響きを望んでいるので、運指やペダルに注意して全体的にぶつ切りの音にならないように注意して欲しい。
- ・ 最後のハーモニクスに関しては中央ドの位置の鍵盤を *smorzando* 以降にセロテープなどで固定する。
セロテープは演奏前に準備し、手近な所に切って用意しておくこと。
- ・ 曲の最後の音同士を結ぶ直線は完全なるレガートを表すものである。点線はそれの中の音の減衰である。
- ・ 黒丸の音符の音価は自由であるが、可能な限り長く伸ばされることを作曲者は望む。

楽曲解説

色聴による百合のスケッチであるこの曲は譜例1の音列が基本になっている。

〈譜例1〉



1 2 音音列ならぬ 1 1 音音列である。B 音が自由な扱いを受けるのは色聴上の理由である。

調性は完全に放棄されており、展開部以外はこの音列が厳密に守られている。

展開部ではやや自由な音使いになっている。

調性は放棄されているが、主題回帰や対話、反復・掛け合いなどの古典的な概念が放棄されているわけではなく、形式としてはコーダを持つ3部形式となっている。

C 音（主音）がペダルで伸ばされる部分が主題提示部で、G 音（属音）がペダルで伸ばされている部分が中間部である。主調（ハ調）から属調（ト調）に向かい、そして再び主調（ハ調）に回帰するという概念は古典的なソナタ形式などに見られる概念である。展開部最後の *color of white lily* は白百合の花びらの音化でハ長調とホ長調の合成和音ある。

C 音は白色、つまり百合の花びらの色で G# 音や B 音は雄しべや雌しべに見られる黄色を表している。

バスから上部和音への隔たりは花びらの透明感を表している。（色聴表参考）

Lily

Kouhei IHARA (1978)

Very slow , dignify ♩ = 25

p *sostenuto* *mp* *mf* *p*

Red. (Little by little) *Red. (Little by little)* *Red.* *Red.* *Red.*

p *piu* *mf* *pp (echo)* *laissez vibrer*

Red. (Little by little) *Red.* *Red.* *Red. (Little by little)* *Red.* *Red. (Little by little)* *Red.*

Chromatically *soft* *p* *mf* *mp* *poco accel e cresc* *f*

Red. (Little by little) *Red. (Little by little)* *Red.* *Red. (Little by little)* *Red. (Little by little)* *Red.* *Red.*

f *color of white lily* *a tempo* *p* *sostenuto* *mp*

Red. (adjustment) *Red. (Little by little)* *Red. (Little by little)* *Red.*

First system of a musical score. The right hand (treble clef) begins with a half rest, followed by a melodic line starting on G4, moving up to A4, B4, and then a half note on C5. The left hand (bass clef) has a half rest, followed by a melodic line starting on G3, moving up to A3, B3, and then a half note on C4. Dynamics include *mf* and *p*. Pedaling instructions include "Ped.", "Ped.", and "Ped. (Little by little)".

Second system of a musical score. The right hand (treble clef) features a complex melodic line with a triplet of eighth notes. The left hand (bass clef) has a melodic line with a triplet of eighth notes. Dynamics include *mf*, *p*, and *pp* (echo). Pedaling instructions include "Ped. (Little by little)", "Ped.", "Ped. (Little by little)", and "Ped. (pedaling free, think about pedaling to the end by pianist)".

Third system of a musical score. The right hand (treble clef) has a melodic line with a half note on G4. The left hand (bass clef) has a melodic line with a half note on G3. Dynamics include *pp* and *smorzando*.

Fourth system of a musical score. The right hand (treble clef) has a half rest. The left hand (bass clef) has a melodic line with a half note on G3. Dynamics include *mp*. Annotations include "right hand prepare for harmonics", "stick to a keyboard with Sellotape", and "harmonics". The system ends with a double bar line.